

令和 7 年度第 3 回小串警察署協議会会議録

開催日時		令和 8 年 2 月 1 7 日（火） 午後 3 時 3 0 分から午後 5 時 0 0 分までの間
開催場所		下関市豊浦町大字小串 1 9 1 番地 1 小串警察署 1 階 講堂
出席者	協議会	森脇委員、山下委員、岸委員、白石委員 計 4 人
	警察署	署長、次長、会計課長、刑事・生活安全課長、地域・交通課長、 警備課長 計 6 人
議題		1 警察業務の推進状況 2 大規模自然災害に備えた諸対策の推進
1 会長挨拶 皆様、公私ともにお忙しい中、警察署協議会にご出席いただき、ありがとうございます。 本日は本年度 3 回目の協議会ですが、新しい委員を迎えてあっという間に年が変わり、早いもので本日の会議が今年度最後の協議会になります。 本日の諮問事項につきましては、大規模自然災害に備えた諸対策の推進についてとなります。 全国では、地震や豪雨による災害で多くの人命が失われ復興等について報道でも多く取り上げられています。下関でも過去には豪雨による浸水・冠水等の被害が発生しており、今回の諮問事項は、誰の身にも起こりうる可能性がある事案として捉えられると思います。 協議の中で警察から具体的に説明があると思いますが、皆様には忌憚の無い意見を出してもらい、本協議会がより良いものになることをお願いいたしまして、簡単ではありますが、私の挨拶とさせていただきます。 よろしくお願いいたします。 2 署長挨拶 (省略) 3 署長業務説明 (1) 警務課・会計課関係業務 ア 警察安全相談 イ 広報活動 ウ 遺失物・拾得物 (2) 地域・交通課関係業務 ア 1 1 0 番受理状況		

- イ 交通事故発生状況
- ウ 交通指導取締り状況
- (3) 刑事・生活安全課関係業務
 - ア 全刑法犯認知・検挙件数、検挙人員
 - イ 特別法犯検挙件数、検挙人員
- (4) 警備課関係業務

5 諮問事項

「大規模自然災害に備えた諸対策の推進」について説明した。

6 諮問事項に関する質疑応答

(次長)

今回の諮問事項は災害についてである。

以前は異常気象という言葉で一括りにされていたが、最近は様々な自然災害が予想を超えた範囲、規模で発生している。

下関においても過去に自然災害が発生していることから、身近でも起こりえるということが言える。

今回の諮問事項の論点は大きく分けて2点あり、1点目は災害に対する人々の防災意識をいかにして高めるかということである。災害発生後の避難などをスムーズに行うために必要となる防災意識高揚に向けた、より効果的な取り組み等についてアイデアがあれば、提言をいただきたい。

現在でも「防災は備えから」ということで、防災週間などの時期を捉えて、防災グッズを備えるよう促す取り組みも行っているが、実際に災害が発生しないと意識をすることは難しいようで、防災に対する意識は十分に浸透しているとは言い難い。

(委員)

たまたま昨日、学校のPTAの集いで防災土の方の講演があり、学校の辺りが土砂災害の危険地域になっているということを教えてもらい、驚いた。

さらに、下関市の「しもまちアプリ」で土砂災害のハザードマップを見ることができると教えてもらったが、このことを知らない人が多いのが現状だ。

学校の連絡もこのアプリを通じて入ってくるので、保護者はだいたい「しもまちアプリ」を入れているはずだが、防災マップを見ることができるということを知らない人は多い。

私は、アプリで「栗野川が氾濫します」と通知が入ったことがあったので、「私が住んでいる地域でも災害が起きることがあるかもしれない」と思ったのをきっかけに確認した。

(次長)

生徒の保護者世代はアプリを通して情報が入ると思うが、高齢世代はどこまで情報に触れられているのだろうか。アプリを使う人は少ないかも知れない。

(委員)

うちでは、自治会で配付される紙の防災マップを使って確認している。

(委員)

小串署管内は高齢者の一人暮らしが多く、自治会に入っていない人も多い。そういった世帯には自治会として配付されないためか、高齢独居世帯ほど、紙のハザードマ

ップを貼っていない印象だ。

要介護が高い人には、避難に際して特別対応がなされるのか。

(警備課長)

国として要介護や要支援の方には、個別に避難計画を進めているところであるが、警察の業務は災害発生時の対応が主軸であるため、災害発生後の対応、防災意識の高揚、広報の充実について、行政と連携して取り組んでいきたいと思っている。

以前、県内の市役所の防災危機管理課で警察官として勤務していた経験があり、そのときに従事した主な仕事も、広報や防災意識の高揚を図る内容であった。

ハザードマップをいかにして周知するかについて、下関市の実態には明るくないが、当時勤務した自治体では、防災士を派遣して教養をしたり、職員が広報をしたりして、各地区の災害対策を推進していく中で、テーマとして取り扱っていた。

防災士による教養の中では、「実際に町を歩いて地元の防災マップ作ろう」という取組をしているところもある。

防災に興味がある人への周知は容易にできると思うが、防災に興味がない人に対して周知することは難しいところもあるので、行政との連携も含めて、今後も広報を実施していく。

(会長)

現在の総合支援学校の校舎が県立高校だった当時から、「校舎北側の山は真砂土のため崩れやすいのではないか」と、気になっていた。

道路を挟んで反対側にある夢が丘中学校はどうなのだろうか。

(委員)

夢が丘中学校はハザードマップの危険区域からは外れており、避難所となっているが、避難所の下までが危険区域であり、土砂災害が発生すれば道がつぶれて避難所にたどり着けないと思った。

(委員)

大雨が降る度に、なんとか自分の身は守らねば、と考えさせられる。

(次長)

災害が発生するかどうかわからない段階で、自分たちのいる場所が危険地帯なのかどうか、いかにして災害に備えるか、を気にすることは非常に良いことだ。

ハザードマップが十分に周知されると良いが、周知されてもなお、危険区域の道路向かいが危険区域になっていないような場合、温度差ができてしまうことがある。

(委員)

確かに、危険区域である総合支援学校から道を隔てた区域には多くの家が建っており、温度差はあるのかもしれない。

(次長)

住んでいる場所によって、山が近いところもあれば海が近いところもあり、想定される災害の種類も、土砂崩れ、冠水、浸水などさまざまであるが、石川での地震では、地震による土砂災害のほか火災も発生している。

地震等が発生した際に、被害を抑え自身を守る行動をとる必要があると思われる。たとえば、実際に家に避難袋があるのかなど、考える機会があればと思っている。

災害発生時、警察の任務は救助がメインとなるので、住民自身で動いてもらうため

には避難訓練等、災害に備えた準備が必要となる。避難要領や必要な準備については、機を見て広報していく。

今回の諮問事項は大きなテーマであり、警察だけでカバーできる問題ではないので、普段の生活の中で住民目線でのご意見等あれば是非うかがいたい。

(委員)

以前、自治会で夢が丘中学校へ避難する訓練をしたことがある。少なくとも避難場所として危険ではないという判断の上で選定されていることと思う。

また、そのとき「避難時にどういう物を持ってくるべきか」ということが気になったので、自治会の集会などで知らせて欲しい。

(次長)

自治会単位で取組があるのは良いことだ。ただし、地域によって年齢構成などが異なるので、伝える話の内容も異なってくると思われる。

(委員)

自治会に加入する世帯が減っている。高齢者の一人暮らし世帯は脱会する方もいるし、比較的若い世帯ではそもそも自治会に加入していない世帯が相当数ある。

自治会に加入している人に比べて、自治会に加入していない人は行政から伝わる情報が半分くらいになっているように感じる。

自治会に入っていない人にも避難場所くらいなら伝えたいと思うが、以前から住んでいる人のことはわかるが、転入世帯のことは分からないので伝えようがない。

そのあたりの情報伝達網をどう構築したらいいだろうか。

(次長)

自治会単位での単発の広報では周知することが難しいので、複層的な情報発信が必要と思われる。

(委員)

個々の意識の問題もあると思う。情報を取りにいく意識が必要ということだ。

プライバシーが障壁となって、自治会の班長さえ各家庭の把握ができていないケースもある。これでは災害時に救助にも影響するのではないかと心配だ。

(次長)

把握しようとするれば個人情報の問題が生じることもある。ヘルパーの方でさえ要介護高齢者世帯の情報を知らないこともあるほどだ。

(委員)

ヘルパーは一人暮らしの人を対象に、事業所ごと定期的に安否確認をすることになっているので、警察が把握した高齢世帯の情報を行政に反映させることはできないのか。

(次長)

警察が把握した情報をそのまま行政に伝えることは難しいが、可能な範囲で連携を図っている。

(委員)

防災士から聞いた話では、「土砂災害が発生したときの避難所と大雨のときの避難所は異なることもある、ということがあまり知られていない」ということであつた。

市報などで広報されているのかもしれないが、見たい記事がないと見ないものだ

から、目に留まりにくい。

小中学生向けに配付してもらえれば、親も見るので周知されやすいと思う。

(次長)

小中学校・高校での防災教育の機会に広報物を配付することが効果的かも知れない。

(委員)

高校生にもなると配付物を親に見せなくなるが、介護事業所のデイサービスなどを通じて高齢世帯に配付してもらうことは可能だと思う。

(次長)

世代に応じて広報の仕方も変える必要がある。防災士による講習などを開催した場合、参加者を集める方法はあるだろうか。

(委員)

過去に参加した講習で、防災士が持ってきた防災食を試食し、意外とおいしかった記憶がある。

普段食べる機会がない物なので、文化祭、体育祭等の行事で作り方を紹介がてら、試食会を開くと参加者も集まりやすいのではないだろうか。

(警備課長)

年に一回、地区ごとで県の防災訓練を実施しており、そのとき自衛隊等が災害時に提供している非常食を出している。

そういったイベントの広報をもっとしていけば参加者がより増えるのではないかと感じている。

(次長)

「イベントに来てください」という待ちの姿勢ではなく、こちらからイベントを仕掛けていく姿勢がないと、参加者を増やすのはなかなか難しいと思われる。

(委員)

夢が丘中での訓練は、最近でも行われているのか。

(警備課長)

今年、消防が中心となって夢が丘中で避難訓練をしている。

避難所の運営については、行政も人数が限られていることから、避難が長期になると行政主体で運営し続けるのが難しくなる。そうすると、被災者が自ら避難所の運営を継続する必要性が出てくるので、それを想定した訓練も行われている。

また例年、いわゆる「人文字」を作り上空へメッセージをとばすという訓練もやっている。

(次長)

年1回の機会なので、参加していただきたいと思うが、参加への案内が広がらないことには、参加者を増やすのは難しい。工夫の余地がありそうだ。

(委員)

自治会に加入していても、役を離れてしまうと情報が入ってきにくくなるものだ。

(次長)

得た情報をいかに広げ、意識をいかに高めていくか、常に意識を持つのは難しいがこの豊浦地区でも災害が起こらないとは限らないことを踏まえて、自身のこと

と捉えていただきたいと思います。

他に生活する中で感じる疑問質問があれば発言いただきたい。

(委員)

国道１９１号の新二見から波原間の通行止めは一度終わったと思って安心して
いたが、長引くのか。

(警備課長)

津波敷トンネルの付近が崩れたことに伴う復旧工事に加えて、以後崩れないよ
うに補強するため、大規模工事になっているようだ。

この土砂崩れは、降雨により発生したが、大雨警報は出ていなかった。

局地的に線状降水帯が発生して崩れたものと思われるので、警報が出ていない
からといって大丈夫だとは思わないでいただきたい。

個々がどういった危険があるのかを考え備えることが大事だ。

７ 配布資料

- (1) 令和７年度第３回小串警察署協議会資料
- (2) 諮問事項関係資料